

風の子通信



2019 年度版 4 月号

「たすけてパスポートプロジェクト」ワークショップ 開催

平成 31 年 3 月 22 日(金)に水戸市庁舎 4 階中会議室にて、「たすけてパスポートプロジェクト」ワークショップを開催しました。「たすけてパスポートプロジェクト」は、障害者を含む要配慮者向け防災システムの構築を目指した事業です。今年度は、水戸市わくわくプロジェクトの協働事業として認可されました。今回のワークショップでは、今までの避難訓練の振り返り及び「たすけてパスポートプロジェクト」によるシステム作りについて発表しました。防災・危機管理課からは、平成 31 年 1 月に完成した水戸市役所新庁舎の最新防災システムについて、施設見学を通して具体的に説明していただきました。障害福祉課からはヘルプマーク・カードの配布及びその有効性について説明していただきました。ご参加くださった方々から、震災時に行方が分からなくなった利用者さんを探した体験や、常総市の水害をふまえての取り組み、身体障害者施設内で行った福祉避難所開設のための避難訓練などの情報提供をいただきました。

有賀先生からは、「困り感を訴える力の弱い発達障害児者が、『たすけて』をわかってもらうためにどうすればいいかを一緒に考えたい。また山積している防災地域福祉の課題についても、行政・風の子と協力し、1 つずつ解決していきたい」と締めくくってくださいました。今後は皆様のご協力をいただきながら、事業を進めていきたいと思っております。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。まずは平成 31 年 4 月 28 日に障害者向け避難訓練の実施を計画しています。皆様のご参加をお待ちしています。

当日の様子



水戸市役所 4 階政策会議室です。

災害時には様々な地点に設置された定点カメラからの情報に加えドローンによる状況を本部で確認できます。



たすけてパスポートやヘルプカードなど、具体的な援助グッズを示しながら、風の子・防災危機管理課・障害福祉課が報告しました。

アンケートから

参加者 38 名の皆様から丁寧な感想をいただきました。抜粋して報告させていただきます。

- ・市の取り組み(避難所・備蓄等)について詳しい説明を聞き安心した。
- ・食事や飲み物だけでなく、過ごし方を想定しておくことの大切さに気付くことができた。
- ・災害時の要支援者がこういったサポートが受けられるのかがわからず、申請していなかった。改めて家族と相談してみようと思った。
- ・本人が助けを求める力が必要であることを再認識した。
- ・水戸市在住者でなくとも、水戸市で被災した時には助けてもらえると聞き、安心した。
- ・今日の内容を事業所内で共有し、利用者のご家族にもお知らせしたいと思った。
- ・とても良い取り組みだが、周知不足ではないか。相談員や事業所を通して、もっとたくさんの人に知らせてほしい。